

## 少年の主張吾妻地区大会

8月19日、中之条町ツインプラザ大ホールにおいて、平成28年度少年の主張吾妻地区大会が開催されました。郡内各中学校の代表が集まり、それぞれが自分の思いを主張しました。本村からは3年生の佐藤 悟大くんが『たった一つ』と題して、素晴らしい発表をしてくれました。その作品をここに紹介します。

(少年の主張吾妻地区大会優秀作品)  
「たった一つ」

高山中学校 3年 佐藤 悟大



みなさんは「命」について考えたことがありますか。僕はこれまで、深く考えたことはありませんでした。しかし、妹の誕生をきっかけに、このたった一つの「命」という宝物のすばらしさに気づくことができました。

僕には今年、妹が生まれました。昨年の夏、母に、お腹の中に新しい命が宿っていることを聞きました。僕は嬉しさを反面、不安な気持ちもありました。それから母のお腹は日に日に大きくなりました。ある日、母が「赤ち

やんの心臓の音聞いてみる？」と云ったので、超音波の機械で聞いてみました。僕の心臓の音よりもずっと速かったです。お腹に手を当てると、中で蹴っているのがわかりました。その時、僕は、「こんなふうにお腹の中で小さな命が生きているんだ」と思いました。

母の病院に付き添ったとき、お腹の赤ちゃんのエコー写真を二回見ました。最初に見たとき、目や鼻や口があるのがわかりました。二度目に見たときはもつと大きくなっている、顔がはつきりわかりました。少し父に似ていました。何もなかったはずのお腹の中に宿った命が、どんな人間らしくなっていくのは、とても不思議な感じがしました。それと同時に、しつかり成長して生きていることに安心しました。早く生まれてほしいな、と楽しみでもありました。

そして今年の一月、僕と父は、母の出産に立ち会いました。母はとても苦しそうで、大きな声を出していました。僕はとても心配でした。母を励まし、酸素呼吸器のマスクをすつと押さ

え付けていました。助産師さんの一声とともに、髪の毛が見えました。それが頭だとすぐにわかり、母に「頭がでてきたからがんばって。」と声をかけました。それから数分後、赤ちゃんが生まれ、大きな産声を上げました。そのとき僕は、今までお腹の中にいた赤ちゃんが実際に目の前に現れたこと、先生や助産師さん、看護師さん、父母、僕とみんな協力しあったこと、母が十ヶ月間がんばったこと、いろいろなことが頭をよぎり、感動で目に涙が浮かんできました。妹を産むために、母は幸せな思いだけでなく、すごく苦しい思いもしました。それを乗り越えなければ、命は誕生できません。だから、この世に誕生したたった一人の自分の妹を、大切に守っていく、と思えました。新しい命が誕生することとは当たり前なことではなく、奇跡なんだということが、理屈ではなくそのときわかりました。

僕たちは生きています。そして、このたった一つの大切な命は、母が与えてくれた大切な宝物です。しかし、僕たちの中で、命の大切さについて考えながら日々の生活をしている人もまだ、少ないのではないのでしょうか。

現実には、命を大切にできない人がいます。新聞やニュースでは、いじめや暴力という言葉をよく聞きます。ひどい時にはそれが行きすぎることもあります。殺すつもりはないと言いな

年齢でも起きています。誰かが傷つけられたら、死んでしまったら、苦しい思いをしてでもその子を産みたくったお母さんや家族が悲しみます。僕は、母や家族があんなに苦労して、だけでも命がこの先傷つけられたら、考えるだけでも辛いです。しかし、それでも命を大切にできない人が世の中にはいるのです。自分が傷ついたことがないからでしょうか。それとも、命の大切さを知らないからでしょうか。

もしもその人たちが、僕と同じように新しい命の誕生の瞬間に立ち会うことができたなら、人をいじめたり、暴力を振るったりすることは、きつとできなくなるはずですよ。自分の命も、家族の命も、自分とは直接関わりのない人の命も、すべての命は、僕の妹と同じような奇跡で生まれてきています。

僕は、「命の大切さ」という当たり前のことについて、これまで深く考えたことはありませんでした。しかし、妹の誕生をきっかけに、命というたった一つの宝物のすばらしさに気づくことができました。そして、将来は命を救ったり、命の誕生を支えたりする職業につきたいと考えるようになりました。ですが、僕たちくらいの年齢で兄弟が生まれ、さらに僕のようにその場に立ち会える人はそれほど多くはないでしょう。だから僕は、貴重な経験を大切にし、このたった一つの命という宝物の大切さを、たくさんの人に伝えていきたいです。



8月11日(木)に、高山村ジュニアア  
ファイターズのみなさんで、国道145  
号線沿いのゴミ拾いをしました。  
日差しの強い暑い中、頑張って作業  
していただきありがとうございます。

8/11

## 高山村ジュニア ファイターズ 奉仕作業



舞いの後には獅子たちがちりぢりに観客  
を追いかけていき、泣き出すお子さんの姿  
も見られました。役原の人々にとっては、こ  
うすることが何よりの無病息災のおまじな  
いかもしれません。

室町時代から伝承されている「役原獅子  
舞い」が今年も披露されました。昔は中学  
生の長男しか舞うことができませんでしたが、  
子どもが少なくなった現在、今年は小学生  
の女の子が2人参加していました。  
子どもが少なくなっていく中、奉納の為  
に集い、練習を重ね、今年も厳かな踊りを  
披露してくれることに感謝です。

8/21

## 村指定文化財 「役原獅子舞い」

園庭で夏祭りを▶  
楽しむ子どもたち



▲ボールすくいを  
楽しむ子どもたち

神輿を担ぐ▶  
子どもたち



8月31日、幼稚園で夏祭りを行いました。  
みんな仲よく楽しく遊ぼう、という願いを込めて作った神輿  
をみんなで担ぎ、子どもたちは、あそびコーナー・体験コーナー・  
ボールゲームコーナー・おやつコーナー等を巡り、様々な体験  
を行うことができました。昼食は、収穫したじゃがいもを使っ  
たカレーをみんなでおいしく食べました。保護者の方々に協力  
をいただき、子どもたちにとって楽しいひとときを過ごすこと  
ができました。

8/31

## 楽しかった夏祭り

9/3

## 高山小学校大運動会



◀ 団の応援も大きな声で  
「ガンバレー!!」



9月3日に、高山小学校大運動会が開催されました。天候が心配されていましたが、運動会日和になり、大勢の家族のみなさんで観客席も大変盛り上がり上がっていました。



ほくたちが1番になるぞ! ▶

## ～地域のサロン活動をご紹介します～

### 「判形地区サロン」

判形地区は判形公民館の他に、各地域ごとの集会所があります。判形ではこの集会所単位でのサロンを開催しています。開催は向井・溝口、柿平、西原、前原、関口地区で各地区ごと月1回程度です。

民生委員さんが中心となり地域の協力者やボランティアさんと簡単な体操を行ったり、ゲームなどを行いながら賑やかに楽しい時間を過ごしています。

また、交流施設「なごみ」も近いことから、昼食会を兼ねたサロンも開催しています。

代表：小林あい子・伊能 秀臣

サロン活動は、

公民館などの身近な場所で地区の方や仲間と交流し楽しく過ごすための集まりです。内容も開催の頻度も地域でそれぞれ違いますが、地域の高齢者がいきいきと過ごせるための場として、生き甲斐づくりの一端を担っています。ぜひ、お近くのサロンに参加してみませんか。



▲西原サロン



▲向井・溝口サロン



▲前原サロン



▲柿平サロン



▲関口サロン

# ～農山村体験の受入をしました～

今年の夏も、都会の大学生たちが高山村の自然と暮らしを満喫し、高山村の魅力を発見してくれました！

## 8/8 ～19 地域づくりインタビュー の会2016

今年も首都圏の大学生が2人、村にやって来ました。8月8日～19日までの12日間、農作業をはじめ、ふるさと祭りの用意・当日手伝いをしたり、様々な手作り体験をしたり、活動を通して村の事を知ってもらいました。「実家よりもほっとする」「本当にいい所だから友達を連れてきたい」等素直な感想を述べてくれました。

最後には、活動報告として村のいい所・改善した方がいい所を提言してくれ、私たちに多くの気付きを与えてくれました。

今回の地域づくりインタビューの会受入に御協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

▶児童館の子どもたちと一緒に



◀収穫した野菜の処理



## 8/26 ～9/5 「道の駅」と大学との連携 (就労体験型実習)

道の駅中山盆地では、県内にある道の駅で初の学生受け入れを行いました。

就労体験型実習とは、学生ならではの視点で道の駅を通じた地域活性化を図るプログラムです。今回、埼玉県と東京都から計3名が、8月26日～9月5日の間体験しました。活動は、レジ補助、ポップ・イベントチラシづくり、また厨房・配膳などを通して従業員やお客様と交流しました。

活動報告会では、道の駅全体に対する改善点や具体的な改善方法を提案しました。今後とも学生の提案を大事にして繋がっていきたいです。

▶販売の手伝い



◀活動報告会にて



## 9/12 ～16 若葉の ふるさと協力隊

若葉のふるさと協力隊とは…

現役の緑のふるさと協力隊がコーディネーターになり、様々な体験を通して高山村の魅力を伝えるプログラムです。

9月12日から5日間、女子大学生3名と大学院生1名が来村し、農作業体験や郷土料理作り、座禅などを体験しました。

高山村に興味があったり、農作業体験をやってみたいと希望してくれた参加者たちは、それぞれが初めての体験に戸惑いと喜びを感じているようでした。

そして、高山村へ来て一番感じたことは自然が豊かで、野菜がとつてもおいしいこと。今まで食べていた野菜とはまったく違うことに驚いたようです。

今回御協力していただいた高山村の人たちとのふれあいがなにより嬉しかったと語ってくれました。

今回の短期プログラムに御協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

▶おきり込みうどん作り



▲高山きゅうりをガブリ!!おいしい!!